



さとのかぜ

NO.165

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

2月号 2009年 2月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

2月6日は初午、お稲荷様の祭りです

磯野家の屋敷神を祀る木造の宮



関家の屋敷神を祀る石宮



夷隅郡市には、屋敷神をお祀りする家がたくさんあります。お祀りする形状は、木造の社、石宮、藁宮があり、最も多いのは石宮です。「生家は木造の社だったが、新家は石宮」という家が増えているためとか。屋敷神は、ところによって「コウジンサマ」「ジンサマ」「ウジガミサマ」「イナリサマ」など、色々な呼び名があり、祀られている神様も様々です。が、一番多いのが稲荷神で、夷隅郡市では正月と秋（10月や11月）にお祭をするという家が多いと聞きます。ちなみに供物は稲荷神のお使い様といわれる狐の好物油揚げや、豆腐、甘酒等、家、地区によって違いが見られます。

ところで稲荷神の祭りといえば、初午（はつうま）に行われる稲荷社の総本社・伏見稲荷大社の「初午大祭」は、新春一番の京の祭礼として有名です。「福参り」「初午詣」の名で親しまれ、家内安全・商売繁盛のお守り“しるしの杉”を求める参詣客で大賑わいします。伏見稲荷大社の祭神が伊奈利山に降りられたのが和銅4年（711年）、初午の日であったところから、この日を稲荷神の祭礼と定めたとか。稲荷神は古くから五穀豊穰、商売繁盛の神様として篤い信仰を集め、『枕草子』や『今昔物語』、『大鏡』にもこの初午詣の記述があります。江戸時代になると「江戸に多いは伊勢屋、稲荷に犬の糞」と戯



『東都歳時記』に描かれた王子稲荷社の初午の賑わい。

れ唄に詠まれるほど数多くの稲荷社が町にあふれ、『東都歳時記』にこの初午の賑わいが描かれています。ちなみに初午は2月最初の午の日をいい、今年は2月6日が初午にあたります。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○『そばうちをしよう』18日

○『わらぞうりをつくろう』25日

《そばうちをしよう》

センターの人気行事「そばうち行事」は今回もキャンセル待ちが多数でした。今回の参加者は男性9名、女性13名の計22名。家族参加を考慮した結果、定員を2名オーバーすることになりました。



講師の“水回し”の手元を真剣に見つめる参加者たち

水（粉の42～45%）の半量を流し入れます。続いて粉に水を含ませるように大きくかきまぜながらなじませます。様子を見ながら残りの水を加えてゆくこの行程は“水回し”といい、そば打ちの中で最も重要なポイントです。混ぜているうちに最初は細かかった粉が、大きな塊になったら一塊にまとめます。次にまとめた生地を外側から内側にもみ込むようにこねる“菊練り”の行程に移ります。生地につやがでてきたらこんどは“へそ出し”。さらに生地を円錐形に整え、手の平で生地をつぶして平に延ばす“地延し”となります。5、6cmほどの厚さまで延ばしたところで麺棒を使い、円形に延ばしてゆく“丸出し”の作業を行います。好みの厚さに延ばしたら丸い生地から四つの角を出す“四つ出し”の作業を行います。さらに生地の厚さが均一になるよう延ばす“本延し”、打ち粉をまぶしながら折りたたむ“たたみ”の作業を行います。この時、「打ち粉を多めに振っておいた方が、包丁に生地がくっつかなくて扱いやすい」と講師。最後に生地をこま板と包丁を使って均一の幅になるよう切り、そば打ちは完了です。

待望の試食タイムは打ちあがったそばを各自茹で、センターで用意されたそばつゆと刻みネギ、のりをかけていただきました。多少太くても、不揃いでも、自分で打ったそばの味は格別です。皆「美味しかった」、「来年も参加したい」と大満足でした。

センターピックアップ 2月
<春を見つけに来てください>
 立春を過ぎたとはいえ、春の息吹を身近に感じる日はまだまだ先。でも、センター地区の草木たちは、そろそろ春支度に入っています。ちいさな春を見つけにいらっしゃいませんか？

センターで資料を受け取った参加者は、実習会場となる「つどいの家」へ各自移動。身支度を整えた後、講師から作業行程の説明を聞き、そば粉と小麦粉を手にとり、4グループに分かれて作業台に向かいます。今回打つそばは、そば粉7に対し、小麦粉3の“三七そば”。“二八そば”よりも打ちやすい」と講師。そば粉は日立産。小麦粉は、強力粉を使い、一人頭350gを打ちます。

まずそば粉と小麦粉をふるいにかけて、持参した捏ね鉢やボールに入れ、分量の



「おそばは食べるのも作るのも大好」真美ちゃん（9歳）は今回で2回目の参加。

《わらぞうりをつくろう》

健康志向の高まる中、草履（ぞうり）や下駄（げた）のもたらす健康効果が注目されています。それは、下駄や草履は足の指で鼻緒をはさみ、踏ん張って歩くことで、足に筋力がつき、身体のバランス感覚がアップし、さらにはへん平足や外反母趾の予防にもなるからです。最近ではスリッパ代わりに布草履を使用している、という方も多いと聞きます。実は今回の参加者の中にも「布草履を作りたくて、今回参加した」という方がいました。

イベント参加者は男性5名、女性7名の計12名。資料と材料（わら一束、鼻緒用の布地、縦縄用の縄1本）、編台を受け取り、作業場となるセンターの木工室へ。木工室内にセットされたムシロ席に着き、尾形講師から作業工程や注意事項の説明を受けた後、各自わら束を手になら打ち機に向かいます。「おかざり作り」や「置物づくり」など、わらを使ったセンター行事に参加したことのある人にはおなじみですが、このわら打ち機、初めての人には力もコツもいるため、助手の安藤君の手を借りる人が少なくありませんでした。

材料がそろったところで再び木工室へもどり、草履作りに取り組みます。まず縦縄を2等分し、1本の縄の切り口をそろえて左手に持ち、輪の部分をもその上に重ねると2つの輪ができます。それをそれぞれ編台にひっかけます。左手の平を上に向け、中指を中央の輪に入れ、左右の縄の間に人差し指と薬指を入れ、縄が張るように引きます。これで草履の骨組ができたこととなります。

次に柔らかく打ったわらを3、4本取り、縄の輪の中央部分に左巻きに4cmほど巻きつけます。この部分がつま先となります。巻き終わったら、残ったわらを中央の2本の縦縄の下を通して左

の縄の上に出し、ぐるりと巻くようにして、今度は2本の縦縄の上を通し、右の縄の下に出す、この作業を3回ほど繰り返して編みます。その後は4本の縦縄の1本ずつを上下にくぐらせて編み進み、足の長さの三分の二まで編んだところでひとまず置き、鼻緒を作ります。3、4本のわらを束ね、鼻緒用の布を右巻きに巻きつけたものを4本作り、2本をなべて鼻緒を作ります。鼻緒の長さを決め、残ったわらの部分を編みかけのぞうりに編み込み、かかとの部分、残り三分の一を編み上げます。



全員時間内に草履を編み上げることが出来ました。作品を手に笑顔で記念撮影

編み上がったら、編台にかけていた縦縄をはずし、手元の2本の縄を1本ずつ、加減を見ながら引き絞るとぞうりの形が出来上がります。もう片方も同様に仕上がるように作り、最後に前鼻緒をつけて完成です。

「今回で3度目の参加になるが、まだ左右同じ形に成らない」、「こんなに力があるものだとは思わなかったけれど、とても楽しかった」、「ちょっと不細工でも私だけのオリジナルだから満足です」等々、いずれの方々も最後は笑顔で終了できました。 (大東 悠子)

和泉-日在浦だより 厳寒期の浜辺 (2009年2月1日)



波しぶきが美しい厳寒期の浜辺 (日在浦)

[美しい波しぶき]

厳寒期の浜辺に次々寄せてくる波は、白く輝く波しぶきが見事です。雲ひとつない青空の下、碎ける波の波頭から舞い上がってくる水煙が朝日にまぶしく光ります。地元で「ドカリの波」と呼ばれる大きな波が岸边に近づく際、磯根の砂岩が割れ砕けた丸い石の「ゴロゴロゴロ」と転がる音が心地よく響き渡ります。

[浜辺近くの野鳥たち]

海岸近くの田んぼではタゲリ(チドリ科)やムクドリが餌を漁る姿があり、近寄ってもなかなか逃げようとはしません。生垣沿いの道を進むとヒヨドリ、ハクセキレイ、スズメなどを見かけることが多く、サイクリング道路付近ではカワラヒワの蛇行飛行を横目に、キジが入江100メートル幅を一直線に横断する姿に出会います。日在潟ではカルガモ、ヒドリガモ、コガモ、ダイサギ、アオサギ、カワウをいつも見かけ、一方浜辺の渚線付近ではミュビシギの摂餌や群舞を観察できます。

[厳寒期の植物たち]

道端のスイセンがここ数年来株を増やしてい



磯辺のミュビシギ (和泉浦)

の新芽も膨らみ始めました。



真冬に咲くキミガヨラン (1/10)

て、旧年中から次から次へと今なお咲き続けていますが、私共地域住人の活動で道路際へゴミのポイ捨てが減ってきたのは何よりも嬉しいことです。例年は10~11月頃に見られるキミガヨランが厳寒期に浜辺近くのあちこちで見られるのは、昨年夏の暑さの影響なのではないでしょうか。種類が違う椿の花が順次咲いてゆく中で、梅の蕾やコブシの樹

[森谷 淵(もりや ふかし)]

◎今、いすみでは???

<寒空に咲く花>

今日は1月25日(日)、暦の上では「大寒」^{だいかん}を迎え、一年で最も寒い時期となりました。センター周辺も、今朝は真っ白な霜に覆われていました。寒さ真っ只中、草木は枯れ、辺りはすっかり冬景色ですが、センターの畑には早くも春を感じさせるものがありました。**紅梅**^{こうばい}の花です。その名の通り、紅色の美しい花を枝いっぱい咲かせていました。普通の梅よりも少し早く開花します。そして、ふと足元を見ると、地べたに張りつく大きな花のようなものを見つけました。よく見ると、それは花ではなく赤くなった葉が平たく八方へ幾重にも重なっているものでした。**アレチマツヨイグサ**の冬越しの姿です。アレチマツヨイグサは月見草の仲間、本来高さ1



紅梅の花



冬のアレチマツヨイグサ

mぐらいになります、冬にはこのように地べたの葉だけを残します。こうすることで、寒い北風を避け、冬の日差しをたくさん受けることができます。

湿性園に足を伸ばしてみると、まっすぐ伸びた大きな木に、なにやらミミズのような形のものがたくさんぶら下がっていました。その正体は…。それは**ハンノキ**の花でした。花びらのない雄しべだけがたくさん詰まったオスの花で、寒いこの季節に花を咲かせ、花粉を風に乗せて飛ばすのです(メスの花は別にあり、小さな松ぼっくりのような形をしています)。いすみにも、少しずつ春が近づいています。



ハンノキ (何がぶら下がっている?!)

いすみの気象情報(1月)

平均気温: 3.8 °C 最高気温: 17 °C 最低気温: -3.5 °C 総雨量: 139.1 mm



ノ ス リ
(タカ科)

今月の

見い~つけた!

No.10

湿性園の上空をぐるぐると巡回しているところを見つけました。カラスより少し大きめのタカの仲間で、背中側は褐色、おなか側は白く、両方の翼の中ほどに黒い模様があるのが特徴です。夏は山の方にいますが、冬になると平地に降りてきます。この季節、センター近くでしばらく空を見上げていれば、出会えるチャンスは大! ちょっと寒いですがじっと待つのも楽しいですよ!

(堺 勇人)

2月の行事案内

★『干潟の鳥たち』定員20名

日 時 1日(日)8:30~11:30
雨天順延 2/8

場 所 夷隅川河口周辺他

集 合 ネイチャーセンター

★『つるでかごづくり』定員20名

日 時 22日(日)9:30~16:00

場 所 センター地区

持ち物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、お弁当

<3月の行事予定>

★『炭焼きに挑戦しよう』定員20名

日 時 7日(土)9:00~未定
8日(日)13:~15:00

参加対象 中学生以上(中学生は保護者同伴)

場 所 ネイチャーセンター

持ち物 軍手、うちわ、懐中電灯、空のペットボトル(500ml程度)、お弁当(7日の昼・夕)

★『春の星座を見てみよう』定員20名

日 時 21日(土)18:00~20:30
雨天順延 3/22

場 所 ネイチャーセンター

持ち物 懐中電灯、寒くない服装

4月の行事予定

指定管理者変更のため、21年度の年間行事予定は、まだ決まっておりません。決まり次第発表いたしますので、いましばらくお待ちください。

ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

いすみ楊枝

—千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日 時 2月15日(9:30~16:00)

場 所 ネイチャーセンター

講 師 高木 守人氏

参加料 無料

内 容 楊枝・花入れ・茶杓作り

* 次回は3月15日(日)開催予定です。

*

詳細等はTEL470-86-3078 池田和彌氏まで
お問合せ下さい。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

* eメール可(メールアドレス:info@isumi-sato.com(@は全角です))

* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

*「さとのかぜ」の定期購読を希望される方は、郵便代として、80円切手12枚、または960円にて受付ます。ただし、指定管理者の変更により「さとのかぜ」の年間発行回数を変更されることがあります。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休 館 日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間:9:00~16:30、入館料:無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。